

# 第30回日本YWCA全国会員総会報告 Women Creating a Safe World 女性が創り出す平和な世界

日時：2009年11月21日（土）～23日（月）  
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター



シン・ヒョウン 韓国YWCA副会長（右）

分科会

### ■日本YWCAの使命（ミッション）

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

### ■第30総会期主題

平和を実現する人々は幸いである  
—マタイによる福音書5章9節—

### ■日本YWCAビジョン2015

- ①非核・非暴力による平和を構築する
  - ・平和憲法をまもり、世界に広める
  - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
  - ・女性と子どもの権利をまもる
  - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- ②若い女性のリーダーシップを養成する

### 全

国会議員総会選挙準備委員は出席代表

臨時全国総会、出席代表議員17名、「日本YWCA会則改正」が一括採決により可決された（賛成100 反対0 棄権1）。臨時加盟中央委員会は出席47名、「第30総会期加盟費新出基準」が採決により可決された（賛成41 反対0 棄権0）。

### 臨

臨時全国総会、出席代表議員17名、「日本YWCA会則改正」が一括採決により可決された（賛成100 反対0 棄権1）。臨時加盟中央委員会は出席47名、「第30総会期加盟費新出基準」が採決により可決された（賛成41 反対0 棄権0）。

### 11

11月21日（土）～23日（月）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて臨時全国総会、臨時加盟中央委員会、第30回全国役員総会が開催された。

日本YWCAはアジア・太平洋戦争後に、侵略戦争を阻止できず、しかも戦争協力を余儀なくされたことを反省し、二度と戦争を起こさないために平和憲法を守ることを決意し、その後一貫して平和のために活動してきましたが、正式な謝罪文は出していませんでした。戦後50周年の1995年、日本YWCA創立90周年の際に立場表明を出そうとしたが、時の常任委員会で、日本YWCAの戦時中の活動を歴史的事実に基づいて解明してこそ、責任ある表明ができると考え、この時は会長声明を出すに留まりました。その後、韓国・中国・世界YWCAなどへの聞き取りや資料調査を行い、日本の植民地支配と侵略戦争下での日本YWCAの歩みを明らかにし、創立100周年を迎えた2005年に「日本YWCA100年史」を発行しました。「日本YWCA100年史」の学習を通して、全国の地域YWCAより謝罪と決意表明文の案が寄せられ、今回の決意表明文が作成され、第30回全国会員総会において「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」を決議しました。

## アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文

日本YWCAは、アジア・太平洋戦争後、「二度と戦争はしない」と誓い、キリスト教の基盤に立って人間の尊厳を守り、世界平和の実現のために努力することを運動の基本方針としてきました。この戦争が侵略戦争であり、日本YWCAもその戦争に加担する過ちを犯した事実を認識していたからです。そして2005年の創立100周年を機に戦前・戦中の日本YWCAの歴史を改めて検証し、その罪責への反省に立って、正式な謝罪と未来への決意を表明することを決定しました。私たち日本YWCAは、過去の事実を真摯に受け止め、とくに、アジア・太平洋地域において戦争に巻き込まれた人々への加害の罪を謝罪するとともに、平和な未来の実現に向けて取り組む決意を表明いたします。

アジア・太平洋戦争とそれに至る歴史の中で、日本はアジア・太平洋地域への侵略と植民地支配によって多くの人々の自由、財産、生命を奪い、文化を破壊しました。また、多くの人々を日本へ強制連行し、非人道的で苛酷な労働を強い、あらゆる人権侵害を積み重ねました。さらに、おびたしい数の女性を日本軍の性的奴隷として扱い、女性の尊厳を踏みにじる行爲を行いました。私たちはこの歴史の事実を心に刻み、日本が犯した深い罪責が現在にもおよびることを知り、加害者としての責任を自覚するものです。

日本YWCAは、日本軍国主義体制の下で、侵略戦争に協力するという重大な過ちを犯しました。世界YWCAとの交流をやめ、国際団体としての特質を失い、天皇を神とする国家神道に妥協し、キリスト教団体の本質をゆがめていきました。植民地であった朝鮮YWCA（当時）の日本YWCAへの編入、上海における日本人によるYWCA創設なども含めて、日本の不当な国家戦略の一翼を担ったことを、心から謝罪いたします。

戦後、日本YWCAは、侵略戦争のみならず、武力とすべての戦争を放棄する日本国憲法9条の精神こそ、真の平和への指針であると確信し、非暴力による平和構築のために努力を続けてきました。また、被爆国に生きるものとして、「人類と核は共存できない」ことを認識し、核のない世界の実現を目指して活動を続けています。近年、アジア地域のYWCA間の交流、特に戦争を経験していない若い世代間の交流が活発に行われ、国や文化を越えた、対話による平和を創る活動が芽生えてきています。

イエス・キリストに学ぶとする私たちは、過ちを二度と繰り返さないために、「沈黙は過去の過ちを繰り返すことである」との認識に立って、日本の軍事大国化を許さないために声をあげ、日本政府に対して粘り強く働きかけていきます。また、非核・非暴力による平和を構築するための平和教育を展開します。そして、暴力のない未来に向けて、世界のYWCAと共に、特にアジア・太平洋地域のYWCAと連携して、対話による平和と和解への道を歩み続けていく決意を表明いたします。

以上

講演（左）石井廣子 子どもの開会宣言後、スーザン・ブレナン 世界Y会長、ビンリー・副会長、ニャラサイ・グンボンズバンダ 総幹事らのビデオメッセージがあった。第1号議案、石井会長の日本Y基調報告では、世界Yに連なる日本Yの3年間の歩みと迎えて前回の世界YWCA総会の4つの決議①「国連女性別撤廃条約と選択的定着の完全実施」②「アジアの女性移住労働者の問題」に取り組む③「国連安規法決議1325号の実施」④「中東における平和のために、特に女性と子どもたち

のため」、また、2つの勧告中の「若い女性のリーダーシップ開発」・「女性と子どもへの劣化ワフン兵隊の養成」の廃絶のために、日本Yの取り組みが報告された。

の観出版、編集委員会は10回の機関紙発行、ファンドレイジング委員会は世界Yファンドレイジング・マニュアルを翻訳発行、指導者養成委員会委員会は若い会員の国際会議参加や各種プログラムへの支援について報告された。

第2号議案「第29総会期会計決算報告」が可決され、「公益法人新法」への対応」についての質疑応答の後、第3号議案「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」が主生律子副会長から提案され、修正の上、可決された（賛成100 反対0）。

さらに、各報告員基調報告として、中東YWCA委員会は中高Yと地域Yの連携を強めるための「YWCAパスポート」発行広報委員会においてはホームページの新刷新構築サイト立ち上げ、国際コミュニケーションチームは翻訳ソフトウェアを募り「コモン・コンサーン」など

川越国世総幹事の日本Y活動報告は、第30回全国総会決議事項に関する説明、日本Yは26地域・35中高Y・地域Yにより設立された準加盟団体で形成されていることを確認し、映像を用いた26地域Yの活動を振り返った。両報告は議決された。

夜は日韓ユースカンファレンス実行委員会の若い委員の企画による交流会が開かれた。在日本韓国YMCAの協力で韓国音楽や舞踊が披露され、最後は各自持参した音の出る手作り楽器で全員大合唱して終了した。

（3面に続く）